
Movie III

高橋泰英

高橋皮フ科クリニック（横浜市中区）

今年も私のお勧め映画をいくつか、お役に立てるといいのですが。昨年公開のものが中心で、いずれもDVDレンタル可能です。

『ムーンライト』

ある黒人青年の成長物語であると同時に、純愛映画でもあります。セリフが少なく静かに物語が進行しますが、波に揺られて運ばれるような心地良さで退屈しないでしょう。時々流れる遠慮がちな音楽もそれに寄与していると思われます。一部の人には受け入れにくい内容かもしれませんが、久々に深く重いけれど温かい感動に満たされました。少年期、青年期、成人してからを3人の俳優が演じています。顔はまるで違うのですが、しゃべり方や癖などですぐに同一人物だと分かります。少年期を支えた薬の売人役の俳優が米アカデミー賞助演男優賞を受賞しましたが、主人公の3人もすごい演技だと思います。

『ザ・コンサルタント』

凄腕の会計士が膨大な帳簿を検索してある会社の不正会計を暴くが、発覚を阻止しようとする犯人に命を狙われます。ところがこの男は幼少期に軍人の父親から格闘技や武器の扱いを徹底的に教えられた、歩く兵器でした。会計士としても超一流の男がとてつもなく強く、しかも他人との交流が非常に苦手という特異なキャラクターで、他のアクション映画とはちょっと違う味わいがあります。

『ローマ法王になる日まで』

中南米出身として初めてローマ法王になった現法王フランシスコの半生。軍事政権による独裁時代のブエノスアイレスに生まれた青年が、苦難の日々を歩みながら成長していく物語で、宗教色の強い映画が苦手な私も何の抵抗もなく話に引き込まれました。庶民派法王として弱者の視点に立って活動をしている背景には、若い頃の様々な過酷な経験があるわけです。キリスト教に全く興味のない人でも、一人の男の波乱万丈な人生には感銘を受けるはずです。

『この世界の片隅に』

第二次大戦下の呉を舞台に、段々激しくなる空襲の中で生きる平凡な一家の日常と原爆投下、そして戦後までを描く。戦争の悲惨さを強調して反戦を訴えるのではなく、戦時下の苦しい状況の中でもたくましく生き延びようとする庶民の生活を丁寧に描くことにより、平和の尊さが胸に迫ります。『火垂るの墓』は悲惨過ぎて今から見直そうという気になれませんが、この映画は孫ができれば是非一緒に見たいものです。

『ダンケルク』

第二次大戦初期のイギリス軍の撤退戦を描いたクリストファー・ノーラン監督作品。かなり激しい戦闘だったはずですが、映画の印象はとても静かです。ノルマンディー上陸作戦を描いた『プライベート・ライアン』などの目を覆いたくなるようなリアルな殺戮場面はありません。それでも緊迫感と戦争の悲惨さは十分に伝わってきます。ノーラン監督は相変わらず時間の操作がお好きなようです。

『ドリーム』

NASAで性差別・人種差別に屈せず白人男性と同等以上の仕事をなしとげた、黒人女性数学者、エンジニアたちの物語。話の展開は予想通りで意外性はありませんが、小さいエピソードをしっかりと積み重ねて飽きさせません。とにかく見終わってすっきり気分が良くなると断言できます。実情はもっと陰湿だったのではとか突っ込みどころはあるのかもしれませんが、これが面白くないという人にお勧めできる映画はありません。

『ドント・ブリーズ』

視覚障害者の家に盗みに入った若者たちの恐ろしい体験とは。ホラーですが、幽霊・怪物の類は出てきません。やはり怖いのは生身の人間。息をすることはできないという題名ですが、息ができないのは観客の方。

『フレンチ・ラン』

はみ出し者のCIA職員とパリでスリをしている若者が凶悪テロに立ち向かう。スピーディーな展開と軽快な(CIA職員の方は重厚な)アクション。何も残りませんが、見ている間の92分の充実は保証します。

『パッセンジャー』

理想の惑星に移住するため、120年間人工的に冬眠処置を受けた5千人の旅客と乗務員を乗せた宇宙船が自動操縦で航行していた。隕石の衝突で機械が破損し、1台だけ冬眠維持装置が故障してしまう。90年も早く目覚めた男は、このままたった一人で宇宙船の中で一生を終わるという絶望感に苛まれる。話し相手はバーテンダーのアンドロイドだけ。そして1年後に苦渋の決断をする。自分だったらどうするか、考えてしまいます。

『セトウツミ』

放課後に暇を持て余した男子高校生が、ただひたすら下らない会話をするだけのダラダラした映画ですが、妙に嵌りました。人によっては時間の無駄とを感じる人もあるでしょうが、青春時代ってこういう無意味な生活が貴重なんだと思います。是非続編が見たい。

『スクランブル』

高級車専門に窃盗をしている兄弟が、マフィアの車を盗んだせいで囚われの身となり、敵対組織が所有するフェラーリを盗む羽目に。かつての名車がこれでもかという感じで登場。車好きはそれだけで楽しめると思います。そうでない人もそれなりに。

ここから先はちょっと古い映画でぜひ観て欲しいものを少し。

『L.A.コンフィデンシャル』

ロサンゼルスを舞台としたクライム・サスペンス。映画館で見終わって、しばらく動けなかったのはこれと『フィールド・オブ・ドリームス』だけです。この映画でケビン・スペイシーの目の輝きがある瞬間に変わり、何が起こったかが分かるのですが、お見逃しなく。

『クラッシュ』

人種差別をテーマの一つとした群像劇、脚本が見事です。本来重いテーマですがエンターテインメントとしても1級品、後味も悪くありません。人間は良くも悪くも実に複雑な存在です。日本ではあまり知られていないかもしれませんが、見ないと損する隠れた名作だと思います。

『初恋のきた道』

村に初めてできた学校に赴任してきた教師と少女のなんとも瑞々しい恋物語です。教師の葬式を描く現代のシーンは白黒、回想シーンは青春時代を表すかのようなカラー映像になるのですが、その色彩の鮮やかなこと。そして邦題もいいですね(原題は『我的父親母親』)。このころ『恋する惑星』というこれまたチャーミングな題名もありました。原題のカタカナ書きばかりの昨今、配給会社の方はもう少し工夫してほしいです。

『サマー・タイムマシン・ブルース』

昨日と今日だけを行ったり来たりのとでもせこいタイムマシンもの。事件もシャンプーの紛失や、エアコンのリモコンの故障だのという些細なことばかり。タイムパラドックスも知らない阿呆なSF研の連中が右往左往するどたばたコメディですが、タイムトラベルの要点はきっちり抑えてあり、辻褄が合っている点がさらに笑いを誘います。

『アイデンティティー』

嵐の夜モーターに吸い寄せられるように集まった10人が次々と殺されていく。どんなにサスペンス好きの人も、犯人はわからないと思いますよ。ただし反則だと言って腹を立てる人がいるかも。